（別紙4）　　平成　28　年度

# 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

| | | | |
|---|---|---|---|
| 事業所番号 | 2773201484 | | |
| 法人名 | けいはん医療生活協同組合 | | |
| 事業所名 | グループホームきんだ | | |
| 所在地 | 大阪府守口市金田町2丁目25－15 | | |
| 自己評価作成日 | 平成28年7月20日 | 評価結果市町村受理日 | 平成28年9月15日 |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

| | |
|---|---|
| 基本情報リンク先 | |

【評価機関概要（評価機関記入）】

| | |
|---|---|
| 評価機関名 | 特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ　ナルク福祉調査センター |
| 所在地 | 大阪市中央区常盤町2－1－8　FGビル大阪　4階 |
| 訪問調査日 | 平成28年8月8日 |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

個別ケアに力を入れており、生活リハビリを通して可能な限り入居者様のできることを増やし、継続してしていただいている。うれしいこと悲しいこと辛いことを共感することで信頼関係を築き、ここで自分は生活していてもいいんだという安心感をもっていただけるようなそんな居場所づくりをしている。毎月カフェを開店し、地域の方や民生委員さんに来ていただくことで開かれた事業所づくりをしている。認知症の家族をおもちの方も来られ、居宅に相談した事例もある。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

事業主がけいはん医療生活協同組合であり、近隣には診療所、介護事業所、介護付有料老人ホームなど、9つの高齢者介護施設を運営して、地域に根ざしたより良い医療と介護を提供するべく地域まるごとの健康づくりを目指している。当施設は1ユニットで利用定員が7名であり個別対応介護に手厚く、生活リハビリを基本としているが、3名の利用者が週に3回、車で送迎のリハビリに通っている。管理者の交代後も間もないが、熟練したスタッフ間の連携のもとに事業所内に自治会を立ち上げている。利用者が会長となり職員が司会を務め、月に1回はおやつを食べながら全員参加のもとに意見や要望を汲み上げ、出された意見をリビングに貼りだして目標としている。地域との交流にも積極的でチラシを配布して毎月末、施設内で認知症カフェを開催して交流している。

## Ⅴ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| | 項　目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | |
|---|---|---|---|
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25） | ○ | 1. ほぼ全ての利用者の |
| | | | 2. 利用者の2/3くらいの |
| | | | 3. 利用者の1/3くらいの |
| | | | 4. ほとんど掴んでいない |
| 57 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38） | ○ | 1. 毎日ある |
| | | | 2. 数日に1回程度ある |
| | | | 3. たまにある |
| | | | 4. ほとんどない |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38） | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が |
| | | | 2. 利用者の2/3くらいが |
| | | | 3. 利用者の1/3くらいが |
| | | | 4. ほとんどいない |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37） | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が |
| | | | 2. 利用者の2/3くらいが |
| | | | 3. 利用者の1/3くらいが |
| | | | 4. ほとんどいない |
| 60 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49） | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が |
| | | | 2. 利用者の2/3くらいが |
| | | | 3. 利用者の1/3くらいが |
| | | | 4. ほとんどいない |
| 61 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31） | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が |
| | | | 2. 利用者の2/3くらいが |
| | | | 3. 利用者の1/3くらいが |
| | | | 4. ほとんどいない |
| 62 | 利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28） | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が |
| | | | 2. 利用者の2/3くらいが |
| | | | 3. 利用者の1/3くらいが |
| | | | 4. ほとんどいない |

| | 項　目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | |
|---|---|---|---|
| 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19） | ○ | 1. ほぼ全ての家族と |
| | | | 2. 家族の2/3くらいと |
| | | | 3. 家族の1/3くらいと |
| | | | 4. ほとんどできていない |
| 64 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20） | | 1. ほぼ毎日のように |
| | | ○ | 2. 数日に1回程度 |
| | | | 3. たまに |
| | | | 4. ほとんどない |
| 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4） | ○ | 1. 大いに増えている |
| | | | 2. 少しずつ増えている |
| | | | 3. あまり増えていない |
| | | | 4. 全くいない |
| 66 | 職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12） | ○ | 1. ほぼ全ての職員が |
| | | | 2. 職員の2/3くらいが |
| | | | 3. 職員の1/3くらいが |
| | | | 4. ほとんどいない |
| 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が |
| | | | 2. 利用者の2/3くらいが |
| | | | 3. 利用者の1/3くらいが |
| | | | 4. ほとんどいない |
| 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての家族等が |
| | | | 2. 家族等の2/3くらいが |
| | | | 3. 家族等の1/3くらいが |
| | | | 4. ほとんどできていない |

# 自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

| 自己 | 外部 | 項　目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| **Ⅰ.理念に基づく運営** | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践<br>地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 法人の理念である「ずっと元気にこの街で」にそったGHの理念「本音で暮らす」は入居者様がいつまでもここで我慢せずになんでも言える関係をつくり、暮らしていけることを目指している。 | 法人の理念とともに「人が好き、笑顔が好き、この街が好き」とエントランスに大きく掲示され職員はそれをモットーにケアにあたっている。パンフレットに記載、事業所訪問者にも目にとまる場所に掲示されている。 | 地域との交流を拡大しようと考案中で事業所開設10年の積み重ねをもとに、この地域での高齢者福祉サービスの中核となれるようホーム独自の理念を職員全員で話し合う予定になっているので期待したい。 |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい<br>利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 自治会での集まりへの参加や地域運営推進会議、行事、見学会などで交流がある。なるべく買い物や、散髪は、地域の商店を利用することで顔なじみとなっている。散歩などでは近隣の方から挨拶していただける場面もある。 | 自治会には入会していないが、触れ合い教室、健康チェック、夏祭りに参加したり買い物、理美容院などに出かけ挨拶をしたり声掛けを得ることがある。事業所としては地元中学生の体験実習の受け入れカフェーへの招待などで交流に努めている。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献<br>事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | カフェでの相談受けつけ。事業所の介護かわら版を毎月作成、配布している。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み<br>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 2か月に一回取り組んでいる。地域包括の職員や民生委員が参加。GHの現状や、事故報告などを共有している。行政の取り組みなどの報告あり。自治会の行事、ボランティアなどの提案もしてくださる。 | 奇数月の第二火曜日を定例化し開催されている。地域包括支援センター、行政、民生委員などの参加で双方向の情報交換がされ、施設運営・サービス向上につなげている。関係者には会議録の情報公開も行っている。 | |
| 5 | (4) | ○市町村との連携<br>市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる | 8割が生活保護を受給されており、生活福祉課の担当者が今年度から新しくなられたということでカフェへの案内状をお渡しすると来所して下さり、担当入居者様と交流された。 | 守口市生活福祉課担当者とは常に連絡を蜜にとっている。カフェの案内で担当者の訪問時には施設内の案内や事例報告・相談するなどお互いに協力体制が築けるよう努めている。 | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践<br>代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 今年度は学習を行っていないが、日々の業務の中で、拘束とはどういうことかいうことは話し合っている。改めて、今年度中に学習を行っていく。 | 法人主催の職員研修項目で「身体拘束・虐待防止」が徹底され職員は行動の拘束・言葉の拘束の弊害及び人権尊重はしっかり受け止めている。ハード面は2階のため、外に出たい様子の折は職員が付き添い、思いに沿うようにしている。 | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底<br>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている | 虐待防止マニュアルに沿ってケアを行っている。日々の身体的・精神的なご様子に注意を払い気づきを大事にケアを行っている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項　目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用<br>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 将来的に今後必要性のある方はケアワーカーさんと連絡を密に取り合うようにしていく。職員間の学習も検討していく。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得<br>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 契約時での説明は時間をとり、丁寧に行っている。質問等にはその時だけではなく常時受け付けている。 | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映<br>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 来所時での聞き取りで行っている。医療福祉生協のアンケートに毎年1回取り組んでいる。 | 家族の訪問時に聞き取りをしたり、医療福祉生協の毎年実施されるアンケートなどから意見・要望・課題を抽出している。直近では肥満を気にかけている家族の要望で「車椅子ごとの体重測定機」を用意し実施、安心・満足されたと事例がある。 | |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映<br>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | スタッフ会議を行っている。シフトの交代時での申し送りの時にもできる限り聞き取り行っている。それらで決まったことを業務に反映させている。 | 日頃から職員間のコミュニケーションが良好で意見交換をされている。適宜の自治会議、毎日のシフト交代時の申し送りなどから管理者は職員の意見や提案を聞く機会を設け運営に反映させるようにしている。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備<br>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 法人の方針にのっとり、事業目標をたて、職員の役割や個人目標を職員自信でたてることで目標をもって業務ができる。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み<br>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 法人内外の研修の受講の促しを行っている。新人職員には法人内の研修有。 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上<br>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 守口市のグループホーム連絡会への参加をしている。連絡会主催の見学会あり。 | | |

| 自己 | 外部 | 項　目 | 自己評価<br>実践状況 | 外部評価<br>実践状況 | 外部評価<br>次のステップに向けて期待したい内容 |
|---|---|---|---|---|---|
| **Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援** | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係<br>サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | アセスメントシートを職員間で共有し、ケアにあたる。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係<br>サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 同上 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援<br>サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 他事業所との連携で対応可能。法人内サービスの提案も可能。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係<br>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 人生の先輩として対応している。個人の意見を尊重している。少しの気づきも共有することでその方自身の情報を得、ケアに活かしている。 | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係<br>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 行事への誘いや介護の方向性を相談している。 | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援<br>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 以前に住んでおられた地域への散歩や食堂に一緒に行ったり、面会時には自室でゆっくり対応していただけるようにしている。 | 入居時の情報を参考にし、居住地域への散歩や食堂・喫茶店などに入り、大型スーパーでの買い物や、ペットショップの見学、馴染みの理美容院を利用したり、馴染みの人・場所への関係継続の支援に努めている。家族と墓参りに出かける人もある。 | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援<br>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 職員が間に入ることで関係がスムーズにいく場合有。トラブルが起きないような席順の考慮をしている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項　目 | 自己評価<br>実践状況 | 外部評価<br>実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
|---|---|---|---|---|---|
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み<br>サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 利用が中止となり在宅に戻られても他のサービスにつなげることが出来るようなアドバイスを行っていく。 | | |
| **Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント** | | | | | |
| 23 | （9） | ○思いや意向の把握<br>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 毎月24日のGHの自治会にてそれぞれの希望・要望の聞き取りを行っている。 | 月1回開催のホーム自治会（利用者と職員がリビングで一堂に揃う）での意見・要望や日常の生活等より推察したり、意思表示のない人は家族から聴収し本人本位となるよう思いや意向の把握に努めている。情報は記録を共有し評価考察している。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握<br>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 各個人カルテの情報を共有している。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握<br>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 各個人の業務日誌やカーデックス、看護介護報告書を職員間で共有している | | |
| 26 | （10） | ○チームでつくる介護計画とモニタリング<br>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | カンファレンスにて対応している | 本人・家族の意見を汲み取り、ケアマネジャーを中心に担当者・看護師・主治医の意見を参考に介護計画は作成される。短期は半年、長期は1年で見直され、急な変化時はその都度話し合い現状に即した計画が関係者には連絡され実施につなげている。 | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映<br>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 各個人の業務日誌やカーデックス、看護介護報告書を職員間で共有している | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化<br>本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 往診・歯科（往診）、訪問理美容にお願いすることで安心して暮らせる。 | | |

| 自己 | 外部 | 項　目 | 自己評価<br>実践状況 | 外部評価<br>実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
|---|---|---|---|---|---|
| 29 | | ○地域資源との協働<br>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | ボランティアに来ていただき歌や踊りを見ることで楽しんでいただく。将棋の得意なボランティアにも来ていただいたことあり | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援<br>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 2週間に1回主治医が往診。同法人内の診療所なので連携も密にとりやすい。 | 近隣地域からの入居者が多く、契約医療機関の内科医が主治医となり、歯科も同様で双方とも月2回の往診がある。他科（眼科・皮膚科・整形など）受診は原則家族が付き添うことになっているが不可の場合は職員が同行している。同系列医療機関との連携で健康管理は安定している。 | |
| 31 | | ○看護職との協働<br>介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 診療所とは連携を密にとっているため、看護職員を通じて主治医の指示は仰げる状態。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働<br>利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている | 入院時は入居者様の戸惑いや不安感を少なくするためにも頻回に訪問し、その都度担当看護師に状態の確認を行っている。退院時にはカンファレンスに参加する。 | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援<br>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 入所契約時に方針の確認行い、各個人カルテに記載し、共有できるようにしている。 | 「重度化した場合の指針」は作成され入居時に説明・同意を得、個人カルテに綴っている。現在の利用者は高齢（平均83、8歳　最高97歳）であるが状態は良好の様子にて近々の緊迫感はない。しかし今後に向け経年とともに看取り対応も視野に準備態勢の必要性を感じている。 | 重度化の経過におけるその様態レベルの指針及びマニュアル類の作成、職員の研修計画が必要と考えられる。2年前に1事例臨死体験をしたスタッフは勉強になったと言っている。職員全員で取り組むことを期待する。 |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え<br>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 法人内の学習会に参加し（AED）職員間で共有している。緊急時のマニュアルの共有。 | | |
| 35 | (13) | ○災害対策<br>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 年2回の避難訓練を行っている。地域に施設内の入居者リストを提出し、災害時にも協力していただけるようにしている。 | 併設事業所共同で年2回の防火訓練を実施している。地震・水害なども念頭にあるがそれらについては具体化はされていない。地域の生活協同組合員及び近隣の職員も多く協力的で訓練には積極的に協力してくれている。備蓄の用意もある。 | |

| 自己 | 外部 | 項　目 | 自己評価<br>実践状況 | 外部評価<br>実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
|---|---|---|---|---|---|
| **Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援** | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保<br>一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 接遇の学習を行い、入居者様への対応に気を付けている。職員自身の心がけを事業所内に掲示し、来所者に見えるようにしている | 法人全体の研修は、接遇・人権について・プライバシーの確保・個人情報保護などに関して実施されている。利用者の対応も留意し呼称も人により個別性を考慮している。殊に排泄・入浴時の支援には細心の配慮に心がけている。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援<br>日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 訊く心がけを職員全員が行っている。要望・要求事項はカーデックスなどに記載している。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし<br>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 1日の過ごし方は朝のミーティング時に各入居者様と一緒に確認している。1日の中でも変更あれば意向を尊重している | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援<br>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | その日の衣類はご自身で決めていただく。男性の髭剃りなどは都度都度声掛けさせていただいているが無理強いはしない。 | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援<br>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている | 個別対応している。給食ではない調理をするときには全員が関わることが出来るように工夫している。 | 食事は委託業者が献立・調理をし、ユニットで配膳、希望を組み込まれるようになっている。行事食・おやつはホームの手作りで用意・提供している。おせち料理、そうめん流し、時には外食なども企画している。利用者は出来る範囲で片付けや食器洗いを職員と一緒に行っている。 | 従来より食事は利用者と一緒に職員はしていない。見守り、お話をしている。調査当日は多くの人が食事介助なく自力で食事をしていた。前回の外部評価でも課題であった。新しい管理者と一緒に食べる時間を考えてほしい。 |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援<br>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | バイタル表で確認しながら状態に合わせて支援している。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持<br>口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 毎食後のケアを個個に行っている。隔週で歯科医の訪問あり。 | | |

| 自己 | 外部 | 項　目 | 自己評価<br>実践状況 | 外部評価<br>実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
|---|---|---|---|---|---|
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援<br>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | バイタル表で排泄リズムを確認しながらケアを行っている。全員がトイレでの排泄を実施している。 | 利用者の7人中5人がトイレでの自立排泄である。2人のうち介護度5の人は日中は誘導、不穏状態の人は排泄リズムを参考に介助している。夜間は介護度5の人は1回おむつ交換している。全員がトイレ排泄・自立を目標に支援を行っている。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応<br>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | なるべく薬に依存することの無いように自力排便を目指している。朝食に寒天ゼリーを召し上がっていただいたり、牛乳を飲んでいただいている。おなかに温湿布をしたり、入浴時にはマッサージをご自身でしていただいている。 | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援<br>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている | 現在お昼に入っていただいているが、入居者様に合わせて夜に入りたい方がいれば対応して気持ちよく入浴していただいている。 | 入浴は週2～3回　13時～16時に行っているが利用者の希望で夜に行うこともあり柔軟に対応している。入浴拒否の人にはスタッフ(指名)を変えたり様子を見ながら声掛けをしている。不都合の折は清拭・足浴に変えるなどで清潔に努めている。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援<br>一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 入居者様の生活リズムに合わせて支援している。 | | |
| 47 | | ○服薬支援<br>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 処方薬のファイルをいつでも見て確認できるようにしている。カーデックスを利用し職員間でも共有している。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援<br>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 以前の職種である酒屋さんの力持ちを活かして荷物運びは率先してして頂いている。家事は女性がお得意で協力し合ってされている。朝のミーティングの時に掃除などの役割を確認し合う。 | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援<br>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 常に散歩には希望を聞き対応している。買い物希望された時も出来るだけ一緒に馴染みの商店に(スーパー)に行っている。家族と一緒に不定期に食事や外出に行かれている。 | ハード面からも外気に触れる機会を持ち閉塞感から解放されるようにと職員は考えている。利用者の体力を考え近隣の公園迄、周辺を散歩するなど個人の力量と相談しながらコノミヤ、ジャガータウン等へ出かけることもあり、知人・友人に出会いお互いにこやかな表情とのことである。 | |

| 自己 | 外部 | 項　目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援<br>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 自身で管理できる方には必要なお金（買い物）をその時々にお渡ししている。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援<br>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 希望時には対応している | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり<br>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 季節感のある壁飾りや絵を飾っている。自身の作った作品など飾っていると喜ばれている。トイレを間違えない様に目立つ記号を貼っている。室温には注意をし、温め過ぎず、冷やしすぎない配慮をしている。 | 共用空間は（廊下・居間・食堂・浴室・トイレ等）は不快な臭いや混乱を招くような刺激はない。温度調整もされ広さも確保されている。トイレの表示（鳥居の図示）を考慮し汚染防止につながったケースもある。季節感・生活感のある利用者の作品や写真が飾られアットホームな雰囲気である。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり<br>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | 座る位置的に背中を向ける位置に座られた方が落ち着かれる方にはそのように配慮し、気持ちが高ぶっておられる時には廊下奥のソファに座ってもらい、落ち着いていただく。 | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮<br>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 仏壇やタンス等使い慣れたものを置いて使用して頂いている。 | 居室は洋室でベッド・ナースコール・エアコンが設置されテレビ・仏壇・机・椅子・タンスなど入居前からの使い慣れた馴染みの品が搬入されている。動線も考慮した物品の配置で個別性重視の趣より終の棲家として落ち着くような工夫がされている。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり<br>建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 手すりの設置。浴室の滑り止め、段差なしなどの工夫。 | | |